

笑顔を

届ける

# Deliver a smile

～外食店舗配送の最前線より～

■インタビュー

名豊興運(株)

野々村 裕慶 さん



「Deliver a smile・・・」では、日頃からニチレイロジ東海の業務に貢献していただいている方の仕事への思いと、笑顔をお届けします。

今月号は、名豊興運(株)の野々村さんへインタビューしました。2015年12月に同社へ入社。以来、弊社小牧南駐在の外食店舗ルート配送業務を担っていただいているエースドライバーです。キャリアは僅か2年足らずですが、事故もなく、その確かな仕事ぶりには定評があります。笑顔が印象的な若手ドライバーのホープです。

## ドライバーとして歩む

前職の営業活動で、物流センターに出入りする機会が頻繁にあり、そこで見かけるトラックドライバーの仕事ぶりが楽しそうに見えたのがきっかけでこの業界に入りました。前職では顧客との折衝などでストレスを抱えることもありましたが、今は軽減されていると感じます。ドライバーの仕事はすべて一人でやるイメージを持っていましたが、実際は人と関わる機会が多く、コミュニケーションの大切さを感じています。日頃から他のドライバーと会話をしていると、故障やトラブルの対処法など、とても参考になる情報を教えてもらえます。積極的に声かけをしていますが、実は顔を知っていても、名前を知らないドライバーが結構いたりします笑。

## 焦る気持ちを抑えて

毎日決められた時間で運行するルート配送は、些細なトラブルなどでタイムロスが発生すると、後続店舗の納品は遅れてしまいます。一人で配送をしていると、こうした不測の事態が起こった時に、思わず自己判断で対処をしてしまいがちです。店舗の方が待っていると思うと、焦る気持ちが出てしまうからです。ここで慌てず一呼吸して、まずは「報連相の徹底」と肝に銘じています。目の前のことをしっかりやっつから、次の配送のことを考えるようにしています。ドライバーにとっても焦る気持ちを抑えることはとても重要です。焦りからスピードを出し過ぎ、交通事故を起こしてしまつては本も子もありません。「当たり前のことを当たり前にやるのが大事」というのは簡単ですが、ドライバーになつて、実はこれが難しいことなんだと実感しています。



## 交通事故ゼロが最高のキャリア

配送の仕事はルール違反に対する減点方式で評価されることが多いです。仕事では、ミスをしないことに集中しています。トラックドライバーが一番やっつけないといけないことはそれは交通事故です。どんなに頑張っても、これですべてがアウトです。交通事故ゼロを5年、10年・・・と続けていくことが、トラックドライバーの実績になると思っています。この仕事は、大変さと人手不足が目立っていますが、とてもやりがいのある仕事です。「物流に対して、良いイメージを持っていない人が多いのも事実ですが、必ず誰かが担っていくべき重要な仕事であることは間違えありません。この仕事の魅力を理解し、より多くの人に興味をもってもらえると嬉しいです。

トラックドライバーのキャリアアップをイメージするとき、大型ドライバー、配車、営業、管理職・・・などが思い浮かびますか？この問いに、野々村さんは「交通事故ゼロ」と答えます。この答えにトラックドライバーとしての真のプロフェッショナルと仕事の流儀を感じました。後進のドライバーにとって野々村さんの存在は最高の手本となるでしょう。

聞き手 植村 (編集 中野)



笑顔を届ける To deliver a smile・・・